



説教要旨「人を立ち上がらせる力」

使徒言行録3章11～26節

生まれつき足の不自由だった男は、イエスの名によって癒やされました。この男は喜んで、踊り回って神を賛美し、ペトロたちと一緒に神殿の境内に入って行きました。いつも神殿の入り口で物乞いをしていたこの男が、踊りまわっている姿を見た人々は驚きました。この人々に向かってペトロが語りだします。それは、驚く人々の目を、自分自身や癒された人ではなく、イエス・キリストへと向けさせていくものでした。あなたがたが殺したイエスは、「メシア」であり、そしてメシアであったゆえに、「メシアの苦しみ」を負って十字架にかかれた。イエスを、神は死者の中から復活させてくださったのだ。「イエスの名」によって癒やされたこの男が、目の前で、立ち上がり、踊りまわっているという事実こそ、そのことの証拠だ、と。

キリストの証し人として生きることには、多くの困難が伴います。使徒たちもこの後、イエスの名によって語るなど脅され、そのために鞭を打たれ、監禁されることになっていきます。しかし、使徒たちはそこで、「わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです」（使徒4：20）と、言って立ち上がるのです。

日本のキリスト教史においても、キリスト者であると言うだけで迫害された歴史があります。内村鑑三の不敬事件は、内村本人への攻撃にとどまらず、キリスト教徒全体に対する攻撃へと発展していきました。キリスト教徒は不忠だという非難に屈して、キリストと名を掲げることがをやめた人たちも少なくありません。しかし、イエス様への思いを踏みにじられ、挫折したとしても、そこで終わりではありません。キリストを証ししようとしながらも、挫折するわたしたちのことを、イエス様は支え続けてくださると共に、たとえ倒れ伏すようなことがあったとしても、そこから何度でも立ち上がらせてくださるからです。キリストの苦しみに共にあずかることを通して、立ち上がる力が与えられるのです。だからこそわたしたちは、挫折から何度でも立ち上がり、起き上がり、再び歩き出すことができるのです。